

証券コード 4267
(発送日) 2025年4月10日
(電子提供措置開始日) 2025年4月4日

株 主 各 位

東京都千代田区麹町5丁目3番3号
株式会社ライトワークス
代表取締役 江口 夏郎

第30期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社第30期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいますようお願い申しあげます。

【当社ウェブサイト】

<https://www.lightworks.co.jp/>

(上記ウェブサイトにアクセスいただき、メニューより「IR」「株主について」「株主総会」を順に選択いただき、ご確認ください。)

【株主総会資料 掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/4267/teiji/>

【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

(上記の東証ウェブサイトにアクセスいただき、「銘柄名（会社名）」に「ライトワークス」又は「コード」に当社証券コード「4267」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会書類」欄よりご確認ください。)

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2025年4月24日（木曜日）午後6時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 場
2. 場 所

2025年4月25日（金曜日）午後4時（受付開始午後3時30分）
東京都千代田区神田錦町3-22 テラススクエア 3階
TKPガーデンシティPREMIUM神保町
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)

3. 目的事項
報告事項

1. 第30期（2024年2月1日から2025年1月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第30期（2024年2月1日から2025年1月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

第1号議案

剰余金処分の件

第2号議案

取締役4名選任の件

第3号議案

監査役3名選任の件

第4号議案

監査役の報酬額改定の件

4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）

書面により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

以上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。

# 事業報告

(2024年2月1日から)  
(2025年1月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果から経済活動の正常化が進んだ一方、急激な為替変動をはじめとした金融市場の変動による世界経済の減速や物価上昇、地政学上のリスクの影響など依然として不透明な状況が続いております。

当社の事業領域であるHCM（ヒューマン・キャピタル・マネジメント）関連の市場セグメントにおいては、若手を中心とした深刻な人手不足と中高年社員のリスキリングが大きな課題となっています。有望な若手社員を確保しつつ、環境変化に対応するスキルを持った人材ポートフォリオを確立するために、大企業を中心に積極的な人的資本への投資が行われるようになっています。

当社グループは、生産労働人口の高齢化を背景にしたリスキリングや人的資本経営の実現など、企業の人材開発分野への投資意欲が年々高まる中で、『ミライの「はたらく」を、明るくする』というミッションのもとにHCMクラウドサービスとして、売上高1,000億円以上の国内企業を中心に累計1,500社以上への導入実績を持つ当社のクラウド型LMS（Learning Management System）を活用した人材開発プラットフォームとソリューションを提供するHCMプラットフォーム提供サービスとHCMクラウドを活用したオンライン英会話サービスを提供しております。

HCMプラットフォーム提供サービスは、主にITを活用した人材開発のプラットフォームとして統合型LMSの「CAREERSHIP」を提供することで顧客企業の「学習する組織」の実現を支援しております。「CAREERSHIP」には、企業の研修や教育を支援する「eラーニング機能」、従業員のスキルを可視化する「スキル管理機能」及び従業員の状況を把握するための「キャリアカルテ機能」など、企業のHRに係る業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）化を支援する機能が搭載されており、我が国の大企業に特徴的な複雑な組織構造、人材管理手法及び業務プロセスなどに対応できるように進化・改良の結果、LXD（ラーニングエクスペリエンスデザイン）コンサルティングやBPOサービス、eラーニング受け放題など人材開発に資するトータルソリューションの提供を強みとしており、「CAREERSHIP」の利用者数が順調に推移しました。

オンライン英会話サービスについては、学校や学習塾向けの「OLECO」とお子様がいる家

族向けの「クラウティ」という二つのブランドでHCMクラウドを活用したサービスを提供しております。「OLECO」はBtoBtoCという独自の市場セグメントでサービスを展開しており、当市場セグメントは、決められた時間に決められた数のレッスンを提供する、大規模な生徒の学習管理といったBtoCにはない複雑なオペレーションが求められるので、強力なHCMクラウドを活用する当社が競争力を発揮することができます。一方、BtoC市場セグメントについては、「クラウティ」のブランドで「英語でゲームする」という独自コンテンツを開発して、子供向けサブセグメントの開拓を進めております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、3,534,661千円（前連結会計年度比10.5%増）、営業利益は、315,479千円（前連結会計年度比29.7%増）、経常利益は、273,983千円（前連結会計年度比12.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、194,047千円（前連結会計年度比12.4%減）となりました。

なお、当社グループは、HCMクラウド事業の単一セグメントであるため、全社合計での数値を記載しております。

②設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました当社グループの設備投資の総額は254,446千円であります。その主なものは、当社グループの基幹サービスであるCAREERSHIPの機能強化（ソフトウェア）です。

③資金調達の状況

該当事項はありません。

④事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ①企業集団の財産及び損益の状況

| 区分                  | 第27期<br>(2022年1月期) | 第28期<br>(2023年1月期) | 第29期<br>(2024年1月期) | 第30期<br>(当連結会計年度)<br>(2025年1月期) |
|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| 売上高(千円)             | 2,219,053          | 2,640,880          | 3,199,581          | 3,534,661                       |
| 経常利益(千円)            | 164,592            | 200,453            | 244,302            | 273,983                         |
| 親会社株主に帰属する当期純利益(千円) | 121,097            | 138,430            | 221,615            | 194,074                         |
| 1株当たり当期純利益(円)       | 26.69              | 28.08              | 44.83              | 39.26                           |
| 総資産(千円)             | 1,026,740          | 1,686,435          | 1,949,891          | 2,101,758                       |
| 純資産(千円)             | 360,630            | 833,697            | 977,470            | 945,557                         |
| 1株当たり純資産(円)         | 78.70              | 167.23             | 195.61             | 189.37                          |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数に基づいて算出してあります。なお、期中平均発行済株式数は、自己株式を控除して算出してあります。
2. 1株当たり純資産は、期末発行済株式数により算出してあります。なお、期末発行済株式数は、自己株式を控除して算出してあります。
3. 当社は、2021年9月15日開催の取締役会決議により、2021年10月22日付で普通株式1株につき800株の割合、2022年12月14日開催の取締役会決議により、2023年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、第27期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。
4. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第28期の期首から適用しており、第28期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

②当社の財産及び損益の状況

| 区分            | 第27期<br>(2022年1月期) | 第28期<br>(2023年1月期) | 第29期<br>(2024年1月期) | 第30期<br>(当事業年度)<br>(2025年1月期) |
|---------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 売上高(千円)       | 1,208,669          | 1,573,664          | 2,027,296          | 2,325,112                     |
| 経常利益(千円)      | 91,557             | 99,388             | 156,350            | 276,403                       |
| 当期純利益(千円)     | 65,436             | 72,183             | 166,143            | 217,096                       |
| 1株当たり当期純利益(円) | 14.42              | 14.64              | 33.61              | 43.91                         |
| 総資産(千円)       | 735,728            | 1,341,478          | 1,549,342          | 1,662,663                     |
| 純資産(千円)       | 296,979            | 699,735            | 781,805            | 766,500                       |
| 1株当たり純資産(円)   | 65.45              | 141.54             | 158.14             | 155.05                        |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数に基づいて算出しております。なお、期中平均発行済株式数は、自己株式を控除して算出しております。
2. 1株当たり純資産は、期末発行済株式数により算出しております。なお、期末発行済株式数は、自己株式を控除して算出しております。
3. 当社は、2021年9月15日開催の取締役会決議により、2021年10月22日付で普通株式1株につき800株の割合、2022年12月14日開催の取締役会決議により、2023年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、第27期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算定しております。
4. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第28期の期首から適用しており、第28期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名                  | 資 本 金     | 当社の議決権比率 | 主 要 な 事 業 内 容                   |
|------------------------|-----------|----------|---------------------------------|
| 株 式 会 社<br>ライトエデュケーション | 20,050千円  | 93.7%    | 教育業界向け学習管理プラットフォームの<br>クラウドサービス |
| 来宜信息科技(上海)<br>有 限 公 司  | 1,000千人民元 | 100.0%   | 中国国内でのHCM事業                     |

#### (4) 対処すべき課題

当社グループのHCMクラウド事業は、狭義にはHCM市場におけるLMS（Learning Management System）のセグメントを主要なターゲットとしています。わが国ではLMSは学習管理機能を持ったシステムをLMS、パフォーマンス管理やキャリア開発機能を持ったシステムをタレントマネジメントシステムと捉えていますが、世界ではこの両者の機能を兼ね備えたシステムをLMSとしています。当社グループのCAREERSHIPは両者を備えており、世界的にはLMS市場のサービスに分類されます。世界のLMSの市場規模は2022年の187億ドル（2兆4,310億円、1\$=130円で計算、以下同じ）が2027年には436億ドル（5兆6,680億円）となることが予測されており、この間の年間成長率は18.4%となります（出典：Markets And Markets, Feb 2023）。世界全体に占める我が国のGDPの割合は約5%（内閣府）なので、同率程度のLMS市場規模が見込まれるとすると2022年は9.35億ドル（1,216億円）、2027年には21.8億ドル（2,834億円）となります。企業向けのクラウドサービスを利用するには圧倒的に先進国であることを考えると、我が国のLMS市場の潜在的な規模はさらに大きいと考えられます。

HCM市場においてはこれまでSFAやCRMなど通常業務を円滑に進めるためのサービスや、労務・勤怠管理や財務会計などスタッフ部門の業務効率化のためのサービスが中心でした。しかし、新型コロナウィルス感染症対応により促進されているリモートワークやメンバーシップ型からジョブ型への働き方の変革によって、情報共有やコミュニケーション、さらに人材開発やキャリア開発をターゲットとしたサービスへと展開しつつあります。HCMクラウド事業は、働き方改革、労働生産性向上、人と企業と社会のかかわり方の新たな展開などに大きく貢献することが期待されています。

当社グループは、このような事業環境下において、経営ビジョンを達成するために、以下の事項を対処すべき課題として認識しております。

##### ① 人材確保

昨今の人手不足は深刻で特に優秀なIT技術者の確保が非常に難しくなってきています。優秀なIT技術者を惹きつけるため彼ら・彼女らが意欲を持って働くことができる職場の構築を進めています。

具体的には、開発のトップまで3階層というフラットな組織設計に基づく権限移譲、クロスファンクショナルチーム（ミライ構想チーム）による開発テーマの決定への参与、BI、AIなどの最先端技術の開発を進めます。

## ② 開発の優先順位の明確化

当社グループのビジネスモデルは汎用アプリケーションをクラウド上で複数の企業に提供するものです。利用企業数の増加やオンライン英語講座などコンテンツの多様化・高度化にともない機能追加やシステム変更の要望が急増しています。技術的、ビジネス的な要件を熟慮することにより開発現場が混乱しないよう優先順位を明確にしながらシステムの開発を進めていきます。

開発のテーマとその優先順位はクロスファンクショナルチームであるミライ構想チームで毎月検討され、その都度経営会議で検討・承認されます。

## ③ 為替レートの変動について

当社グループが提供しているオンライン英会話サービスについて、フィリピンの講師センターから講師の提供を受けております。今後為替レートの変動次第で売上原価に影響が出る可能性がありますので、販売価格の変更などにより為替レート変動の影響軽微に努めます。

## (5) 主要な事業内容（2025年1月31日現在）

当社グループは、HCMクラウド事業の単一セグメントで事業を行っています。

## (6) 主要な営業所及び工場（2025年1月31日現在）

### ① 当社

|    |         |
|----|---------|
| 本社 | 東京都千代田区 |
|----|---------|

### ② 子会社

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| 株式会社<br>ライトエデュケーション | 本社（東京都千代田区）    |
| 来宜信息科技（上海）有限公司      | 本社（中国 上海市、大連市） |

## (7) 使用人の状況（2025年1月31日現在）

### ① 企業集団の使用人の状況

| 使 用 人 数       | 前 連 結 会 計 年 度 末 比 増 減 |
|---------------|-----------------------|
| 164名<br>(33名) | 3名増<br>(5名増)          |

- (注) 1. 当社グループは、HCMクラウド事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。また、事業部門別の記載に関しては、大規模な組織再編を行ったことで、前連結会計年度末との比較が困難になるため、記載しておりません。
2. 使用人数は正社員の人数を記載しており、臨時従業員の総数は、( ) 内に年間平均雇用人員を概数で記載しております。

### ② 当社の使用人の状況

| 使 用 人 数       | 前 事 業 年 度 末 比 増 減 | 平 均 年 齢 | 平 均 勤 続 年 数 |
|---------------|-------------------|---------|-------------|
| 144名<br>(33名) | 4名増<br>(5名増)      | 37.8歳   | 4年9か月       |

- (注) 使用人数は正社員の人数を記載しており、臨時従業員の総数は、( ) 内に年間平均雇用人員を概数で記載しております。

## (8) 主要な借入先の状況（2025年1月31日現在）

| 借 入 先             | 借 入 額    |
|-------------------|----------|
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行 | 70,000千円 |
| 株 式 会 社 常 陽 銀 行   | 30,000千円 |

## (9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

当社は、2025年3月14日開催の取締役会において、いわゆるマネジメント・バイアウト（MBO）（注）の一環として行われるLWLホールディングス株式会社による当社の発行済普通株式（以下、「当社株式」といいます。）に対する公開買付け（以下、「本公開買付け」といいます。）に賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して本公開買付けへの応募を推奨する旨を決議いたしました。

なお、当社取締役会決議は、本公開買付け及びその後の一連の手続きを経て当社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものです。

（注）マネジメント・バイアウト（MBO）とは、一般に買収対象会社の経営陣が、買収資金の全部または一部を出資して、買収対象会社の事業の継続を前提として買収対象会社の株式を取得する取引をいいます。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2025年1月31日現在)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 19,008,000株 |
| ② 発行済株式総数  | 4,943,600株  |
| ③ 株主数      | 1,439名      |
| ④ 大株主      |             |

| 株主名           | 持株数        | 持株比率   |
|---------------|------------|--------|
| 株式会社エプシモーヴェ   | 2,414,400株 | 48.84% |
| 江口 夏郎         | 400,000    | 8.09   |
| 小迫 宏行         | 332,800    | 6.73   |
| 松林 洋太         | 192,000    | 3.88   |
| ライトワークス従業員持株会 | 148,800    | 3.01   |
| 小野寺 浩         | 121,600    | 2.46   |
| 齊藤 心吾         | 97,500     | 1.97   |
| 山本 和隆         | 96,000     | 1.94   |
| 前田 哲治         | 79,400     | 1.61   |
| 松井証券株式会社      | 64,200     | 1.30   |

### ⑤ その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

### (2) 新株予約権等の状況

- |                                                  |             |
|--------------------------------------------------|-------------|
| ① 当事業年度の末日において当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況 | 該当事項はありません。 |
| ② 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に対し交付した新株予約権の状況           | 該当事項はありません。 |
| ③ その他新株予約権等に関する重要な事項                             | 該当事項はありません。 |

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役及び監査役の状況（2025年1月31日現在）

| 会社における地位 | 氏 名      | 担当及び重要な兼職の状況                                                                       |
|----------|----------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役    | 江口 夏郎    |                                                                                    |
| 取締役      | 小迫 宏行    | 当社品質保証本部長<br>株式会社ライトエデュケーション取締役                                                    |
| 取締役      | 寺田 真琴    | 当社管理本部長                                                                            |
| 取締役      | ロッセル・カップ | ジャパン・インターナルチュラル・コンサルティング社長<br>MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社社外取締役                   |
| 常勤監査役    | 伊藤 行正    | 協立情報通信株式会社社外取締役                                                                    |
| 監査役      | 山口 俊夫    |                                                                                    |
| 監査役      | 渡辺 久     | 安川・好川・渡辺法律事務所パートナー<br>株式会社PJホールディングス社外監査役<br>株式会社T&Pメディストラスト社外監査役<br>株式会社ダイニチ社外監査役 |

- (注) 1. 取締役ロッセル・カップは、社外取締役であります。  
 2. 監査役伊藤行正、山口俊夫及び渡辺久は、社外監査役であります。  
 3. 当社は、東京証券取引所に対し、ロッセル・カップ、伊藤行正、渡辺久の3名を独立役員として届け出ております。  
 4. 監査役伊藤行正は、情報通信業界に関して幅広く高度な知見と豊富な経験を有しております。監査役山口俊夫は、他社での監査役経験等、企業経営に関する専門的な知見と豊富な経験を有しております。監査役渡辺久は、弁護士として企業法務に携わっており、幅広く高度な知見と豊富な経験を有しております。

#### ② 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できるよう、現行定款において、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任の限度額を法令で定める額とする責任限定契約を締結することができる旨を定めており、現在当社の社外取締役及び各社外監査役との間で当該責任限定契約を締結しております。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

### ③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要等

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の取締役、監査役、執行役員、及び国内子会社の取締役であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為（無作為も含む）に起因して賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害金や訴訟費用等が補填されます。

ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするために、犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は填補の対象としないこととしております。

### ④ 取締役及び監査役の報酬等

#### イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、2024年4月25日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

取締役会は、当事業年度に係る取締役の報酬等の内容の決定方法が取締役会で審議された決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

役員報酬等の内容の決定に関する方針等の概要は次のとおりです。

##### a. 基本報酬に関する方針

当社の役員の報酬は基本報酬のみであります。取締役の報酬限度額の範囲内において、企業規模、グロース上場企業を中心とした他企業の報酬水準及び当社従業員の処遇水準を勘案し、また、各々の経営能力、貢献度、役位、職責、在任期間等を考慮して決定しております。

##### b. 業績連動報酬等に関する方針

現時点では導入しておりません。

##### c. 非金銭報酬等に関する方針

現時点では導入しておりません。

##### d. 報酬等の割合に関する方針

月額固定報酬のみとしております。

e.報酬等の付与時期や条件に関する方針

毎年4月開催の定時株主総会後に支給額を改定し、翌月5月より決定した年間報酬額を12分割した額を1年間にわたり毎月支払うこととしております。

f.報酬等の決定の委任に関する事項

取締役会の委任決議に基づき代表取締役江口夏郎が取締役の個人別の固定報酬の金額の決定をしております。これらの権限を委任した理由としては、当社の取締役4名のうち3名が業務執行取締役であるため、業務執行を統括する代表取締役による評価に基づく決定方法が、取締役会での合議により決定されるものより適しているとの考え方からであります。

□.当事業年度に係る報酬等の総額等

| 区分               | 報酬等の総額              | 報酬等の種類別の総額          |         |        | 対象となる役員の員数 |
|------------------|---------------------|---------------------|---------|--------|------------|
|                  |                     | 基本報酬                | 業績連動報酬等 | 非金銭報酬等 |            |
| 取締役<br>(うち社外取締役) | 32,945千円<br>(3,000) | 32,945千円<br>(3,000) | —       | —      | 4名<br>(1)  |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 10,800<br>(10,800)  | 10,800<br>(10,800)  | —       | —      | 3<br>(3)   |
| 合計<br>(うち社外役員)   | 43,745<br>(13,800)  | 43,745<br>(13,800)  | —       | —      | 7<br>(4)   |

- (注) 1. 取締役の報酬等の総額は、2020年12月25日開催の臨時株主総会において年額200,000千円以内(ただし使用人分給与は含まない)と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、3名であります。  
2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
3. 監査役の報酬等の総額は、2022年4月27日開催の第27期定時株主総会において年額10,800千円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、3名であります。

## ⑤ 社外役員に関する事項

### イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

・社外取締役ロッシェル・カップ氏は、ジャパン・インターナショナル・コンサルティング社長及びMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社社外取締役であります。

ジャパン・インターナショナル・コンサルティングと当社との間には特別な関係はありません。MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社と当社との間には特別な関係はありません。

・社外監査役伊藤行正氏は、協立情報通信株式会社社外取締役であります。

協立情報通信株式会社と当社との間には特別な関係はありません。

・社外監査役渡辺久氏は、安川・好川・渡辺法律事務所パートナー、株式会社PJホールディングス社外監査役、株式会社T&Pメディトラスト社外監査役及び株式会社ダイニチ社外監査役であります。

安川・好川・渡辺法律事務所と当社との間には特別な関係はありません。株式会社PJホールディングスと当社との間には特別な関係はありません。株式会社T&Pメディトラストと当社との間には特別な関係はありません。株式会社ダイニチと当社との間には特別な関係はありません。

### □. 当事業年度における主な活動状況

|               | 出席状況及び発言状況並びに社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要                                                                         |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 ロッシェル・カップ | 当事業年度に開催された取締役会16回の全てに出席いたしました。会社経営者としての豊富な経験と幅広い見識に基づき、経営全般の観点から適宜発言を行うなど、意思決定の妥当性・適正性を確保するための適切な役割を果たしております。 |
| 監査役 伊 藤 行 正   | 当事業年度に開催された取締役会16回及び監査役会14回の全てに出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において、通信情報業界における専門的見地を活かし、適宜発言を行っております。                   |
| 監査役 山 口 俊 夫   | 当事業年度に開催された取締役会16回及び監査役会14回の全てに出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において、他社での監査役経験等を活かした専門的見地を活かし、適切な役割を果たしております。            |
| 監査役 渡 辺 久     | 当事業年度に開催された取締役会16回及び監査役会14回の全てに出席いたしました。出席した取締役会及び監査役会において、弁護士資格を有する法的な専門的見地を活かし、適宜発言を行っております。                 |

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称

仰星監査法人

② 報酬等の額

|                                     | 報酬等の額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 27,500千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 27,500千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。
3. 当社の子会社である来宜信息科技（上海）有限公司は、当社の会計監査人以外の公認会計士または監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有する者を含む）の監査を受けております。

③ 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### 3. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

#### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

当社は企業経営の透明性及び業務の適正性を確保するための体制として、取締役会にて「内部統制システム構築の基本方針」を改定する決議を行い、当該基本方針に基づいた運営を行っております。なお当該基本方針は以下のとおり定めております。

##### ①取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- イ 取締役会は、内部統制の基本方針を決定し、取締役が、適切に内部統制システムを構築・運用し、それに従い職務を執行するよう監督する。
- ロ 取締役会は、法令、定款、株主総会決議、取締役会規程等に従い、経営に関する重要な事項を決議する。
- ハ 取締役は、他の取締役と情報を共有し、相互に監視・監督する。

##### ②取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- イ 株主総会、取締役会の議事録、経営会議等の重要な情報については、法令及び「文書管理規程」「稟議規程」等の関連規程に従い、適切に記録し、文書保存年限表に定められた期間保存する。
- ロ 関連規程は、必要に応じて適時見直し等の改善をする。

##### ③損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- イ 当社企業グループのリスク管理を円滑にするために、「リスク・コンプライアンス規程」及びその細則を整備し、リスクに関する意識の浸透、早期発見、未然防止、緊急事態発生時の対応等を定める。
- ロ 代表取締役は、リスク・コンプライアンス委員会を設置させ、経営管理部をその事務局とする。
- ハ リスク・コンプライアンス委員会は、内部監査部門と連携して、全社的なリスクの把握とその評価及び対応策の策定を行い、各部門の長と連携しながら、リスクを最小限に抑える体制を構築する。

##### ④取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- イ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、取締役会の運営に関する事項を「取締役会規程」に定める。取締役会を月1回開催し、必要に応じて臨時に開催する。

□ 取締役会は経営目標・中期経営計画・予算を審議し承認する。代表取締役以下取締役はその達成に向けて職務を遂行し、取締役会がその実績管理を行う。

⑤使用者の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ 代表取締役は、リスク・コンプライアンス委員会を設置させ、経営管理部をその事務局とする。

□ リスク・コンプライアンス委員会は、内部監査部門と連携して、コンプライアンス体制を維持強化する。

ハ コンプライアンス経営を円滑に行うために、リスク・コンプライアンス規程を整備し、コンプライアンスに関する組織の審議、コンプライアンス年度計画の進捗管理や取締役会への上程、教育研修計画の立案、重大なコンプライアンス違反（不祥事を含む。）に関する調査や再発防止策の検討を行う。

二 重大なコンプライアンス違反（不祥事を含む。）が発生したときは、社内のみならず、社外の有識者を調査機関に招致できる体制を構築する。

ホ 法令違反その他コンプライアンスに関する問題を早期発見するため、使用人が当社経営者のみならず社外弁護士へ匿名で直接相談通報できる「ヘルpline」（内部通報制度）を設置し、公益通報者保護に配慮して、事態の迅速な把握と是正に努める。

⑥当社企業グループにおける業務の適正を確保するための体制

「関係会社管理規程」に基づき、関係会社の管理は、子会社管掌取締役及び経営管理部長が統括し、職務執行の報告等を受け、必要に応じて取締役会への上程及び報告を行う。

⑦監査役がその職務を補助すべき使用者を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用者の取締役からの独立性に関する事項

イ 当社は、監査役の職務を補助する使用人は配置していないが、取締役会は監査役会と必要に応じて協議を行い、当該使用人を任命及び配置することができる。

□ 補助すべき期間中は、指名された使用人への指揮権は監査役に移譲されたものとし、取締役の指揮命令は受けない。

⑧取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制及び報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

イ 取締役及び使用人は、監査役の求めに応じて会社の業務執行状況を報告及び必要な情報提供を行う。

重要な社内会議で決議された事項

会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事項

毎月の経営状況として重要な事項

内部監査状況及びリスク管理に関する重要な事項

重大な法令・定款違反

重要な会計方針、会計基準及びその変更

□ 前項の報告をした者に対して、その報告をしたことを理由に不利な取扱いを行うことを禁止する。

⑨監査役の職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役がその職務につき、当社に対して費用の前払い等の請求をしたときは、当社は、請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められる場合を除き、速やかに当該費用又は債務の処理を行う。

⑩その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

イ 監査役会は、取締役と定期的に会合を開き、意思の疎通及び意見交換を実施する。

□ 監査役は、会計監査人及び内部監査部門とも意見交換や情報交換を行い、連携を保ちながら必要に応じて調査及び報告を求める。

ハ 監査役は必要に応じて、重要な社内会議に出席することができる。

⑪反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその体制整備

イ 当社は、反社会的勢力・団体・個人とは一切関わりを持たず、不当・不法な要求にも応じないことを基本方針とする。

□ 経営管理部を反社会的勢力対応部署と位置づけ、対応指針等を整備したうえで、上記基本方針を取締役及び使用人に周知徹底する。

ハ 平素より行政機関などからの情報収集に努め、不当要求等の事案が発生した場合には警察及び顧問法律事務所等の外部専門家と緊密に連携し、組織全体として速やかに対処できる体制を整備する。

## (2)業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

### ①取締役及び取締役会

取締役会は、取締役4名（うち、社外取締役1名）で構成しており、当社の経営管理の意思決定機関として法定事項を協議決定するとともに、経営の基本方針ならびに経営執行上の重要な事項に関する意思決定機関として、また、独立した客観的な立場から取締役及び執行役員の職務執行の監督機関として機能しております。当事業年度末現在、取締役は、代表取締役の江口夏郎、小迫宏行、寺田真琴及び社外取締役のロッシェル・カップの4名で構成されております。取締役会は、原則として月1回の定時取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速な重要事項の審議及び意思決定が可能な体制としております。

### ②監査役及び監査役会

監査役は、取締役会へ出席し、必要に応じて意見を述べるほか、重要な決裁書類の閲覧等を通じて、取締役の職務執行を監査しております。常勤監査役は経営会議へ出席し、部門長等による事業報告を受け調査資料としております。監査役会は、当事業年度末現在、監査役3名で構成されております。常勤監査役の伊藤行正を含め、山口俊夫及び渡辺久の監査役3名はすべて社外監査役となっております。監査役会は、月1回の定時監査役会を開催するほか、必要に応じて臨時監査役会を開催し、監査計画の策定、監査実施状況、監査結果等の検討等、監査役相互の情報共有を図っております。また、監査役は、内部監査人及び会計監査人と随時情報共有や意見交換を実施し、相互に連携を図ることで、監査の実効性を高めております。

### ③経営会議

経営会議は、グループ経営方針と諸方策を適切迅速に審議決定し、経営活動の効率化を図り、併せて重要な報告を目的とした会議体として機能しております。経営会議は、当事業年度末現在、ライトワークスの常勤取締役、執行役員、部長及び常勤監査役、子会社ライトエ

デュケーションの常勤取締役、執行役員、部長により構成されております。経営会議は、原則として週1回の定時に開催するほか、必要に応じて臨時に開催しております。

#### ④内部監査

内部監査は、内部監査規程に基づき代表取締役直轄の立場として、代表取締役より任命された内部監査室長以下2名が実施しております。また、内部監査室及び監査役、会計監査人は年間予定、業績報告など、必要に応じ隨時情報の交換を行うことで相互の連携を高めております。

#### ⑤会計監査人

当社の会計監査人は、仰星監査法人であり、関係法令に則り会計監査を行っております。

#### ⑥リスク・コンプライアンス委員会

「リスク・コンプライアンス規程」に基づいて、代表取締役を委員長とするリスク・コンプライアンス委員会を四半期に1回、当事業年度は4回開催し、コンプライアンス問題及びリスク懸念について定期的に報告を受け、リスクの顕在化を防止するとともに、リスクが顕在化した際の迅速かつ適切な措置を講じる体制を整備しております。

#### ⑦コンプライアンス教育

コンプライアンス意識の徹底を図るため、定期的に教育を実施しております。入社時に教育を実施するほか、全社を対象に情報セキュリティ、コンプライアンスに係る教育を実施しました。

#### ⑧ヘル普ライン運用

コンプライアンス違反行為等を把握するため、「ヘル普ライン運用細則」に則りヘル普ライン制度を定めております。

### 4. 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

## 連結貸借対照表

(2025年1月31日現在)

(単位：千円)

| 科目              | 金額               | 科目                 | 金額               |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                  |                    |                  |
| <b>流動資産</b>     | <b>1,477,215</b> | <b>流動負債</b>        | <b>1,139,817</b> |
| 現金及び預金          | 1,187,610        | 買掛金                | 74,988           |
| 受取手形、売掛金及び契約資産  | 184,263          | 短期借入金              | 100,000          |
| 仕掛品             | 11,235           | 未払費用               | 75,729           |
| 前払費用            | 82,287           | 前受金                | 731,239          |
| 1年以内回収予定の長期貸付金  | 7,050            | 未払法人税等             | 40,153           |
| その他             | 4,826            | 未払消費税等             | 58,213           |
| 貸倒引当金           | △56              | 賞与引当金              | 12,471           |
|                 |                  | その他                | 47,021           |
| <b>固定資産</b>     | <b>624,542</b>   | <b>固定負債</b>        | <b>16,383</b>    |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>33,691</b>    | 資産除去債務             | 16,367           |
| 建物附属設備          | 29,350           | その他                | 15               |
| 工具器具備品          | 3,713            |                    |                  |
| その他             | 627              |                    |                  |
|                 |                  | <b>負債合計</b>        | <b>1,156,201</b> |
| <b>(純資産の部)</b>  |                  |                    |                  |
|                 |                  | <b>株主資本</b>        | <b>924,107</b>   |
|                 |                  | 資本金                | 142,542          |
|                 |                  | 資本剰余金              | 393,932          |
|                 |                  | 利益剰余金              | 387,631          |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>400,903</b>   |                    |                  |
| ソフトウエア          | 399,431          |                    |                  |
| その他無形固定資産       | 1,472            |                    |                  |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>189,947</b>   |                    |                  |
| 投資有価証券          | 24,867           | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>12,072</b>    |
| 長期貸付金           | 40,900           | その他有価証券評価差額金       | △878             |
| 長期前払費用          | 523              | 為替換算調整勘定           | 12,950           |
| 繰延税金資産          | 57,702           |                    |                  |
| その他             | 65,954           | <b>非支配株主持分</b>     | <b>9,377</b>     |
|                 |                  |                    |                  |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>       | <b>945,557</b>   |
| <b>資産合計</b>     | <b>2,101,758</b> | <b>負債純資産合計</b>     | <b>2,101,758</b> |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(2024年2月1日から)

2025年1月31日まで)

(単位:千円)

| 科 目                           |                   | 金 |         | 額         |
|-------------------------------|-------------------|---|---------|-----------|
| 売 売                           | 上 原 高 価           |   |         | 3,534,661 |
| 売 売                           | 上 総 利 益           |   |         | 2,226,436 |
| 販 売                           | 費 及 び 一 般 管 理 費   |   |         | 1,308,224 |
| 営 営                           | 業 利 益             |   |         | 992,745   |
| 営 営                           | 業 外 収 益           |   |         | 315,479   |
|                               | 受 取 利 息           | 額 |         |           |
|                               | 貸 倒 引 当 金 戻 入     | 額 | 532     |           |
|                               | 補 助 金 収 入         | 額 | 105     |           |
| そ の 他                         |                   | 額 | 1,046   |           |
|                               |                   | 額 | 0       | 1,685     |
| 営 営                           | 業 外 費 用           |   |         |           |
| 支 支                           | 支 払 利 息           | 額 | 887     |           |
| 支 支                           | 支 払 手 数           | 額 | 38,633  |           |
| そ の 他                         |                   | 額 | 3,660   | 43,181    |
| 経 特                           | 常 利 益             |   |         | 273,983   |
|                               | 別 損 失             |   |         |           |
|                               | 投 資 有 価 証 券 評 価 損 | 額 | 9,999   | 9,999     |
| 税 金 等                         | 調 整 前 当 期 純 利 益   | 額 |         | 263,983   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税       |                   | 額 | 81,718  |           |
| 法 人 税 等 調 整                   |                   | 額 | △13,965 | 67,753    |
| 当 期 純 利 益                     |                   | 額 |         | 196,229   |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 |                   | 額 |         | 2,155     |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益 |                   | 額 |         | 194,074   |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2024年2月1日から)  
2025年1月31日まで)

(単位：千円)

|                          | 株 主 資 本 合 計 |           |           |         |             |
|--------------------------|-------------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                          | 資 本 金       | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 当連結会計年度期首残高              | 142,542     | 393,932   | 425,906   | —       | 962,381     |
| 当連結会計年度変動額               |             |           |           |         |             |
| 剰 余 金 の 配 当              |             |           | △232,349  |         | △232,349    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益          |             |           | 194,074   |         | 194,074     |
| 株主資本以外の項目の当連結会計年度変動額(純額) |             |           |           |         |             |
| 当連結会計年度変動額合計             | —           | —         | △38,274   | —       | △38,274     |
| 当連結会計年度末残高               | 142,542     | 393,932   | 387,631   | —       | 924,107     |

|                          | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額      |          |                              | 非支配株主持分 | 純 資 産 合 計 |
|--------------------------|----------------------------|----------|------------------------------|---------|-----------|
|                          | そ の 他 有 価 証 券<br>評 価 差 額 金 | 為替換算調整勘定 | そ の 他 の 包 括 利 益<br>累 計 額 合 計 |         |           |
| 当連結会計年度期首残高              | △825                       | 5,475    | 4,649                        | 10,438  | 977,470   |
| 当連結会計年度変動額               |                            |          |                              |         |           |
| 剰 余 金 の 配 当              |                            |          |                              |         | △232,349  |
| 親会社株主に帰属する当期純利益          |                            |          |                              |         | 194,074   |
| 株主資本以外の項目の当連結会計年度変動額(純額) | △52                        | 7,475    | 7,422                        | △1,060  | 6,361     |
| 当連結会計年度変動額合計             | △52                        | 7,475    | 7,422                        | △1,060  | △31,912   |
| 当連結会計年度末残高               | △878                       | 12,950   | 12,072                       | 9,377   | 945,557   |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

株式会社ライトエデュケーション

来宜信息科技（上海）有限公司

②非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

株式会社The Past

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため、連結の範囲から除外しております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

①持分法を適用した非連結子会社の数

持分法を適用した非連結子会社はありません。

②持分法を適用しない非連結子会社の名称等

株式会社The Past

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益及び利益剰余金に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、来宜信息科技（上海）有限公司の決算日は12月31日であります。

連結計算書類の作成にあたっては、同決算日現在の計算書類を使用し、子会社の決算日から連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### (4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法を採用しております（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております）。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

□ 棚卸資産

仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております）。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 15年

機械及び装置 10年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 1～18年

□ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（2～5年）に基づいております。

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、

残存価額を零とする定額法を採用しております。

二 長期前払費用

定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

□ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

④ 収益及び費用の計上基準

顧客との契約に基づき、契約期間にわたってサービスを提供する義務があるため、契約に定められたサービス提供期間で義務を履行するにつれて、顧客が便益を享受すると考えられることから、契約に定められたサービスの提供期間にわたり収益を認識しております。

⑤ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 4. 会計上の見積りに関する注記

貸付金の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

|                |          |
|----------------|----------|
| 1年以内回収予定の長期貸付金 | 7,050千円  |
| 長期貸付金          | 40,900千円 |

(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

貸付金については、債務者の財政状態の悪化により回収可能性に疑義が生じた場合には債権の区分に基づき貸倒引当金を計上しております。

当該見積りは債務者の財政状態の悪化等により影響を受ける可能性があり、見積額と実際の回収不能額との間に重要な乖離が生じる場合には、貸倒引当金の追加計上または貸倒引当金を上回る貸倒損失が発生し、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

## 5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 42,734千円

(2) 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、連結注記表「8.収益認識に関する注記 (2) 収益を理解するための基礎となる情報」に記載しております。

## 6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数

|      |            |
|------|------------|
| 普通株式 | 4,943,600株 |
|------|------------|

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2024年4月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 177,969        | 36              | 2024年1月31日 | 2024年4月26日 |
| 2024年7月16日<br>取締役会   | 普通株式  | 54,379         | 11              | 2024年7月31日 | 2024年10月1日 |

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2025年4月25日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 163,138        | 33              | 2025年1月31日 | 2025年4月28日 |

## 7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループの資金調達につきましては、銀行等金融機関からの借入による方針であり、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

売掛金及び長期貸付金は顧客・取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は主として投資信託であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金はそのほとんどが一年以内の支払期日であります。

未払法人税等及び未払消費税等は税金に係る債務であり、そのほとんどが2ヶ月以内に納付期限が到来するものであります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ 信用リスク（取引先の契約不履行に係るリスク）の管理

当社は、営業債権に関しては、新規取引発生時において顧客の信用状況を調査し、取引額の上限を設定するなどの措置を講じることで、顧客の財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握及びリスク軽減を図っております。

□ 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財政状況等を把握し、リスク軽減を図っております。

ハ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき適時に資金繰り表を作成・更新するとともに一定の手許流動性を維持することなどにより流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく時価のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2025年1月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は含まれておりません。

|                         | 連結貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|-------------------------|--------------------|------------|------------|
| (1) 投資有価証券※2<br>その他有価証券 | 8,734              | 8,734      | —          |
| (2) 長期貸付金※3             | 47,950             | 47,665     | △284       |
| 資産計                     | 56,684             | 56,400     | △284       |

※1. 「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「買掛金」、「短期借入金」、「未払法人税等」及び「未払消費税等」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

※2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額16,132千円）については、市場価格のない株式等であるため、「(1)投資有価証券 その他有価証券」には含まれおりません。

※3. 1年以内回収予定の長期貸付金を含んでおります。

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定  
に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ  
れ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

①時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

|                   | レベル1<br>(千円) | レベル2<br>(千円) | レベル3<br>(千円) | 合計<br>(千円) |
|-------------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 投資有価証券<br>その他有価証券 | —            | 8,734        | —            | 8,734      |
| 資産計               | —            | 8,734        | —            | 8,734      |

②時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

|       | レベル1<br>(千円) | レベル2<br>(千円) | レベル3<br>(千円) | 合計<br>(千円) |
|-------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 長期貸付金 | —            | 47,665       | —            | 47,665     |
| 資産計   | —            | 47,665       | —            | 47,665     |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

投資信託は市場における取引価格が存在せず、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの  
対価を求められるほどの重要な制限がないため、基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類してお  
ります。

長期貸付金

元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定  
しており、レベル2の時価に分類しております。

## 8. 収益認識に関する注記

### (1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

| 区分                       | 金額(千円)    |
|--------------------------|-----------|
| HCMプラットフォーム提供サービス        | 2,509,223 |
| HCMクラウドを活用したオンライン英会話サービス | 1,023,612 |
| その他                      | 1,825     |
| 顧客との契約から生じる収益            | 3,534,661 |
| その他の収益                   | —         |
| 外部顧客への売上高                | 3,534,661 |

### (2) 収益を理解するための基礎となる情報

連結注記表「1.連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等に関する注記等（3）会計方針に関する事項④収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### (3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

#### ①契約負債の残高等

当連結会計年度における契約残高の内訳は以下のとおりであります。

|                            | 当連結会計年度(千円) |
|----------------------------|-------------|
| 顧客との契約から生じた債権(期首残高)<br>売掛金 | 200,220     |
| 顧客との契約から生じた債権(期末残高)<br>売掛金 | 184,263     |
| 契約負債(期首残高)<br>前受金          | 544,184     |
| 契約負債(期末残高)<br>前受金          | 731,239     |

(注) 当連結会計年度に認識された収益のうち期首現在の契約負債に含まれていた額は、485,756千円であります。

#### ②残存履行義務に配分した取引価格

当社及び連結子会社では、実務上の便法を適用し、当初に予想される契約期間が1年以内の契約について注記の対象に含めておりません。当連結会計年度末において、HCMプラットフォーム提供サービスの履行義務のうち、提供期間が未経過のもので、期末日後1年を超えて収益として認識される履行義務は1,689,919千円と見込んでおります。

## 9. 1株当たり情報に関する注記

|                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 189円37銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 39円26銭  |

## 10. 重要な後発事象に関する注記

(公開買付けの実施)

当社は、2025年3月14日開催の取締役会において、いわゆるマネジメント・バイアウト（MBO）

(注)の一環として行われるLWLホールディングス株式会社による当社の発行済普通株式（以下「当社株式」といいます。）に対する公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）に賛同の意見を表明するとともに、当社の株主の皆様に対して本公開買付けへの応募を推奨する旨を決議いたしました。

なお、当社取締役会決議は、本公開買付け及びその後の一連の手続きを経て当社株式が上場廃止となる予定であることを前提として行われたものであります。

詳細につきましては、2025年3月14日公表の「MBOの実施及び応募の推奨に関するお知らせ」をご参照ください。

(注) マネジメント・バイアウト（MBO）とは、一般に買収対象会社の経営陣が、買収資金の全部又は一部を出資して、買収対象会社の事業の継続を前提として買収対象会社の株式を取得する取引をいいます。

# 貸 借 対 照 表

(2025年1月31日現在)

(単位：千円)

| 科目                | 金額               | 科目              | 金額               |  |
|-------------------|------------------|-----------------|------------------|--|
| <b>(資産の部)</b>     |                  |                 | <b>(負債の部)</b>    |  |
| <b>流動資産</b>       | <b>1,144,525</b> | <b>流動負債</b>     | <b>879,780</b>   |  |
| 現金及び預金            | 948,310          | 買掛金             | 57,826           |  |
| 売掛金               | 112,654          | 短期借入金           | 20,000           |  |
| 仕掛品               | 11,494           | リース債務           | 190              |  |
| 前払費用              | 27,764           | 未払金             | 23,474           |  |
| 未収入金              | 19,619           | 未払費用            | 63,399           |  |
| 1年内回収予定の関係会社長期貸付金 | 22,933           | 未払法人税等          | 36,249           |  |
| その他               | 1,804            | 未払消費税等          | 40,615           |  |
| 貸倒引当金             | △56              | 前受金             | 620,921          |  |
| <b>固定資産</b>       | <b>518,138</b>   | 預り金             | 6,651            |  |
| <b>有形固定資産</b>     | <b>31,915</b>    | 賞与引当金           | 10,450           |  |
| 建物附属設備            | 29,350           | <b>固定負債</b>     | <b>16,383</b>    |  |
| 機械装置              | 440              | リース債務           | 15               |  |
| 工具器具備品            | 1,936            | 資産除去債務          | 16,367           |  |
| リース資産             | 187              | <b>負債合計</b>     | <b>896,163</b>   |  |
| <b>無形固定資産</b>     | <b>238,104</b>   | <b>(純資産の部)</b>  |                  |  |
| 商標権               | 1,472            | <b>株主資本</b>     | <b>767,378</b>   |  |
| ソフトウエア            | 236,632          | <b>資本金</b>      | <b>142,542</b>   |  |
| <b>投資その他の資産</b>   | <b>248,118</b>   | <b>資本剰余金</b>    | <b>385,155</b>   |  |
| 投資有価証券            | 8,734            | 資本準備金           | 191,042          |  |
| 関係会社株式            | 27,500           | その他資本剰余金        | 194,112          |  |
| 関係会社長期貸付金         | 87,911           | <b>利益剰余金</b>    | <b>239,680</b>   |  |
| 繰延税金資産            | 62,028           | 利益準備金           | 3,415            |  |
| 敷金                | 44,651           | その他利益剰余金        | 236,264          |  |
| その他               | 17,293           | <b>評価・換算差額等</b> | <b>△878</b>      |  |
| <b>資産合計</b>       | <b>1,662,663</b> | その他有価証券評価差額金    | △878             |  |
|                   |                  | <b>純資産合計</b>    | <b>766,500</b>   |  |
|                   |                  | <b>負債純資産合計</b>  | <b>1,662,663</b> |  |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損 益 計 算 書

(2024年2月1日から)  
(2025年1月31日まで)

(単位：千円)

| 科   | 目         | 金額        |
|-----|-----------|-----------|
| 売上費 | 上総一外取引の費用 | 2,325,112 |
| 売上業 | 倒務業       | 1,449,780 |
| 売上業 | 受取引の費用    | 875,331   |
| 販賣業 | 受取引の費用    | 643,517   |
| 營業  | 受取引の費用    | 231,813   |
| 為業  | 倒務業       | 1,426     |
| 支業  | 受取引の費用    | 68,589    |
| 支業  | 受取引の費用    | 105       |
| 支業  | 受取引の費用    | 12,000    |
| 支業  | 受取引の費用    | 1,234     |
| 支業  | 受取引の費用    | 240       |
| 支業  | 受取引の費用    | 83,596    |
| 支業  | 受取引の費用    | 359       |
| 支業  | 受取引の費用    | 38,633    |
| 支業  | 受取引の費用    | 14        |
| 支業  | 受取引の費用    | 39,006    |
| 支業  | 受取引の費用    | 276,403   |
| 常別  | 利損益       | 9,999     |
| 投資人 | 利損益       | 9,999     |
| 税人  | 利損益       | 266,403   |
| 税人  | 利損益       | 66,429    |
| 税人  | 利損益       | △17,122   |
| 税人  | 利損益       | 49,306    |
| 税人  | 利損益       | 217,096   |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2024年2月1日から)  
2025年1月31日まで

(単位：千円)

| 資本金                    | 株主資本    |           |         |         |       |             |          |
|------------------------|---------|-----------|---------|---------|-------|-------------|----------|
|                        | 資本      |           | 剰余金     |         | 利益剰余金 |             |          |
|                        | 資本準備金   | その他の資本剰余金 | 資本剰余金合計 |         | 利益準備金 | その他の利益剰余金合計 |          |
| 当事業年度期首残高              | 142,542 | 191,042   | 194,112 | 385,155 | 3,415 | 251,517     | 254,932  |
| 当事業年度変動額               |         |           |         |         |       |             |          |
| 剰余金の配当                 |         |           |         | —       |       | △232,349    | △232,349 |
| 当期純利益                  |         |           |         | —       |       | 217,096     | 217,096  |
| 株主資本以外の項目の当事業年度変動額（純額） |         |           |         | —       |       |             | —        |
| 当事業年度変動額合計             | —       | —         | —       | —       | —     | △15,252     | △15,252  |
| 当事業年度末残高               | 142,542 | 191,042   | 194,112 | 385,155 | 3,415 | 236,264     | 239,680  |

|                        | 株主資本 |          | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計    |
|------------------------|------|----------|--------------|------------|----------|
|                        | 自己株式 | 株主資本合計   | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |          |
| 当事業年度期首残高              | —    | 782,630  | △825         | △825       | 781,805  |
| 当事業年度変動額               |      |          |              |            |          |
| 剰余金の配当                 |      | △232,349 |              |            | △232,349 |
| 当期純利益                  |      | 217,096  |              |            | 217,096  |
| 株主資本以外の項目の当事業年度変動額（純額） | —    | —        | △52          | △52        | △52      |
| 当事業年度変動額合計             | —    | △15,252  | △52          | △52        | △15,305  |
| 当事業年度末残高               | —    | 767,378  | △878         | △878       | 766,500  |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ② その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法を採用しております（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております）。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ③ 棚卸資産

仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）を採用しております。

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しております）。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年

機械及び装置 10年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 1～18年

##### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（2～5年）に基づいております。

##### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### ④ 長期前払費用

定額法を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

#### ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### ② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

### (4) 収益及び費用の計上基準

顧客との契約に基づき、契約期間にわたってサービスを提供する義務があるため、契約に定められたサービス提供期間で義務を履行するにつれて、顧客が便益を享受すると考えられることから、契約に定められたサービスの提供期間にわたり収益を認識しております。

### (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

## 3. 会計上の見積りに関する注記

### 貸付金の回収可能性

#### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

|                    |          |
|--------------------|----------|
| 1年以内回収予定の関係会社長期貸付金 | 22,933千円 |
| 関係会社長期貸付金          | 87,911千円 |

#### (2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

関係会社に対する貸付金については、関係会社の財政状態の悪化により回収可能性に疑義が生じた場合には債権の区分に基づき貸倒引当金を計上しております。当該見積りは、関係会社の財政状態の悪化等により影響を受ける可能性があり、見積額と実際の回収不能額との間に重要な乖離が生じる場合には貸倒引当金の追加計上または貸倒引当金を上回る貸倒損失が発生し、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

## 4. 貸借対照表に関する注記

#### (1) 有形固定資産の減価償却累計額

38,245千円

#### (2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

|          |          |
|----------|----------|
| ① 短期金銭債権 | 17,720千円 |
| ② 短期金銭債務 | 6,623千円  |

## 5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

　営業取引による取引高

|            |          |
|------------|----------|
| 売上高        | 17,000千円 |
| 仕入高        | 65,616千円 |
| 販売費及び一般管理費 | 269千円    |
| 営業取引以外の取引高 | 81,811千円 |

## 6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

|            |          |
|------------|----------|
| 賞与引当金      | 3,199千円  |
| 未払金        | 318千円    |
| 未払給与       | 1,292千円  |
| 未払費用       | 1,770千円  |
| 未払事業所税     | 723千円    |
| 前払費用       | 5,511千円  |
| 貸倒引当金繰入超過額 | 17千円     |
| 未払事業税      | 3,352千円  |
| 減価償却超過額    | 39,941千円 |
| 資産除去債務     | 2,153千円  |
| 貸倒損失否認     | 113千円    |
| 繰延資産       | 19千円     |
| 補助金加算      | 164千円    |
| 投資有価証券評価損  | 3,062千円  |
| 投資有価証券     | 387千円    |
| 繰延税金資産小計   | 62,028千円 |
| 評価性引当額     | －千円      |
| 繰延税金資産合計   | 62,028千円 |
| 繰延税金負債     |          |
| その他        | －千円      |
| 繰延税金負債合計   | －千円      |
| 繰延税金資産の純額  | 62,028千円 |

## 7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

| 種類  | 会社等の名称          | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係                                 | 取引内容               | 取引金額(千円) | 科目                 | 期末残高(千円) |
|-----|-----------------|----------------|-------------------------------------------|--------------------|----------|--------------------|----------|
| 子会社 | 株式会社ライトエデュケーション | 所有直接 93.7%     | 教育業界に特化したHCMプラットフォームの提供およびオンライン英会話サービスの提供 | 資金の回収<br>(注) 1     | 17,155   | 1年以内回収予定の関係会社長期貸付金 | 22,933   |
|     |                 |                |                                           | 利息の受取<br>(注) 1     | 1,221    | 未収利息               | 87,911   |
|     |                 |                |                                           | ロイヤリティの受取<br>(注) 2 | 4,000    | 売掛金                | 366      |
|     |                 |                |                                           | 管理業務受託<br>(注) 3    | 12,000   | 未収入金               | 16,951   |
|     |                 |                |                                           | 出向者給与の受取<br>(注) 4  | 180,380  |                    |          |
|     | 来宜信息科技(上海)有限公司  | 所有直接 100.0%    | 中国及び東アジア地域におけるHCMプラットフォームの提供              | ロイヤリティの受取<br>(注) 2 | 12,999   | 売掛金                | —        |
|     |                 |                |                                           | コンテンツ開発委任<br>(注) 2 | 50,880   | 買掛金                | 5,460    |
|     |                 |                |                                           | システム開発支援等<br>(注) 2 | 14,736   |                    |          |
|     |                 |                |                                           | 出向者給与の受取<br>(注) 4  | 5,796    | 未収入金               | 401      |

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 資金の貸付については、当事業年度中に当該貸付の契約変更に伴い契約期間を延長しております。なお、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
2. 他社との取引条件を勘案の上、同様に決定しております。
3. 人事・総務・経理などの管理業務を受託しているものであります。
4. 給与支払額と同額の請求を行っております。

## **8. 1株当たり情報に関する注記**

|                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 155円05銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 43円91銭  |

## **9. 重要な後発事象に関する注記**

連結注記表に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2025年3月21日

株式会社ライトワークス  
取締役会 御中

仰星監査法人  
東京事務所

|         |       |     |   |
|---------|-------|-----|---|
| 指 定 社 員 | 公認会計士 | 小 川 | 聰 |
| 業務執行社員  |       |     |   |
| 指 定 社 員 | 公認会計士 | 菅 野 | 進 |
| 業務執行社員  |       |     |   |

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ライトワークスの2024年2月1日から2025年1月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ライトワークス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2025年3月21日

株式会社ライトワークス  
取締役会 御中

仰星監査法人  
東京事務所

|         |       |     |   |
|---------|-------|-----|---|
| 指 定 社 員 | 公認会計士 | 小 川 | 聰 |
| 業務執行社員  |       |     |   |
| 指 定 社 員 | 公認会計士 | 菅 野 | 進 |
| 業務執行社員  |       |     |   |

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ライトワークスの2024年2月1日から2025年1月31日までの第30期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としての他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められている他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、2024年2月1日から2025年1月31日までの第30期事業年度の取締役の職務の執行について、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査の方針、監査の実施計画を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。

①取締役会、その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査関係者等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が、法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及び子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして、会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。

③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の施行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人仰星監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年3月21日

株式会社ライトワークス 監査役会  
常勤監査役 伊藤 行正 印  
監査役 山口 俊夫 印  
監査役 渡辺 久 印

(注) 監査役3名は会社法第2条第16号及び第335条第3項に規定する社外監査役であります。

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつと考え、安定配当の維持を基本としながら、今後の事業展開等を勘案して、以下のとおり第30期の期末配当をいたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

##### (1) 配当財産の種類

金銭といたします。

##### (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金33円といたしたいと存じます。

なお、この場合の配当総額は163,138,800円となります。

##### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2025年4月28日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役4名選任の件

取締役全員（4名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、取締役4名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次の通りであります。

| 候補者番号  | ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)                                                                                               | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                          | 所有する<br>当社の株式数 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1      | えくわなつお<br>江口夏郎<br>(1965年5月2日)<br><br>再任                                                                            | 1991年4月 農林水産省入省<br>1997年4月 株式会社グロービス入社<br>2001年9月 当社取締役<br>2002年6月 当社代表取締役（現任）<br>2016年5月 協立情報通信株式会社取締役<br>2016年11月 株式会社ライトエデュケーション取締役<br>2020年6月 株式会社ライトエデュケーション代表取締役会長<br>【重要な兼職の状況】<br>なし                                                                                           | 400,000株       |
| 【選任理由】 |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |
|        | 江口夏郎氏は、幅広い分野において培った経験と企業経営者としての豊富な知識を有しております、代表取締役として当社グループの成長に大きく寄与していることから、今後の当社グループの経営全体を牽引していただけると判断し選任しております。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |
| 2      | こさこひろゆき<br>小迫宏行<br>(1966年5月27日)<br><br>再任                                                                          | 1989年4月 富士通株式会社入社<br>2001年4月 株式会社富士通ラーニングメディア転籍<br>2006年10月 ポケモンラーニング株式会社入社<br>2007年2月 株式会社ポケモン入社<br>2007年10月 当社入社<br>2008年6月 当社技術部長<br>2015年7月 当社技術部統括執行役員<br>2016年11月 株式会社ライトエデュケーション取締役（現任）<br>2018年2月 当社取締役情報管理本部長<br>2024年2月 当社取締役品質保証本部長（現任）<br>【重要な兼職の状況】<br>株式会社ライトエデュケーション取締役 | 332,800株       |
| 【選任理由】 |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |
|        | 小迫宏行氏は、品質管理本部長としての任務を通じて当社の事業活動に関して豊富な経験と高度な知識を有しております、職務を適切に遂行していただけると判断し選任しております。                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |

| 候補者番号                     | 氏　り　が　な　名<br>(生年月日)                 | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 所有する<br>当社の株式数                                                                                                         |
|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3                         | <p>寺田真琴<br/>(1974年4月3日)<br/>再任</p>  | <p>2001年4月 株式会社CRCソリューションズ入社<br/>     2005年10月 株式会社エーエム・ピーエムジャパン入社<br/>     2007年9月 IDSシェアージャパン株式会社入社<br/>     2008年7月 株式会社レックス・ホールディングス（現：株式会社レインズインターナショナル）入社<br/>     2018年6月 株式会社ICI石井スポーツ入社<br/>     2019年7月 当社入社経営管理部長<br/>     2020年8月 当社執行役員管理本部長<br/>     2023年4月 当社取締役管理本部長（現任）<br/>     【重要な兼職の状況】<br/>     なし</p> | 32,000株                                                                                                                |
| <b>【選任理由】</b>             |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 寺田真琴氏は、管理本部長としての任務を通じて当社の事業活動に関して豊富な経験と高度な知識を有しており、職務を適切に遂行していただけると判断し選任しております。                                        |
| 4                         | <p>杉山浩一<br/>(1960年9月10日)<br/>新任</p> | <p>1986年4月 財団法人日本生産性本部（現公益法<br/>財団法人）入社<br/>     1992年6月 タワーズペリン社（現タワーズワト<br/>ソン社）入社<br/>     1997年6月 有限会社杉山マネージメント開発代<br/>表取締役<br/>     2016年5月 株式会社チヨダ監査役<br/>     2017年5月 株式会社チヨダ取締役<br/>     【重要な兼職の状況】<br/>     有限会社杉山マネージメント開発代表取締役</p>                                                                                 | 一株                                                                                                                     |
| <b>【選任理由及び期待される役割の概要】</b> |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 杉山浩一氏は、日系・外資系・大企業・中小企業を問わず、コンサルティング等の職務により培われた人事・労務分野の専門的知識に対して経験と幅広い見識を有しており、当社の経営に対して有益なご意見やご指導をいただけるものと判断し選任しております。 |

- (注) 1. 各取締役候補者と当社の間に、特別な利害関係はありません。
2. 取締役候補者の杉山浩一氏は社外取締役候補者であります。
3. 当社は、江口夏郎氏、小迫宏行氏、寺田真琴氏との間で、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として損害賠償責任を負担するものとする旨の責任限定を締結しております。3氏の再任が承認された場合は、3氏との当該契約を継続する予定であります。また、杉山浩一氏の選任が承認された場合は、同内容の責任限定契約を締結する予定であります。
4. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の取締役、監査役、執行役員、及び国内子会社の取締役であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約により被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為（無作為を含む）に起因して賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害金や訴訟費用等が補填されます。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするために、犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は填補の対象としないこととしております。各候補者が取締役に選任され就任した場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

### 第3号議案 監査役3名選任の件

監査役全員（3名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、監査役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次の通りであります。

| 候補者番号                                                                           | ふりがな<br>(生年月日)               | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 所有する当社の株式数 |
|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1                                                                               | 伊藤行正<br>(1955年9月16日)<br>【再任】 | <p>1980年4月 日本電信電話公社（現：日本電信電話株式会社）入社</p> <p>1991年7月 NTTアメリカ株式会社出向</p> <p>1994年7月 NTT PCコミュニケーションズ株式会社出向</p> <p>1997年11月 NTT国際通信株式会社出向</p> <p>1999年10月 Verio（現：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社）取締役</p> <p>2001年4月 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社理事</p> <p>2007年6月 エヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社取締役</p> <p>2014年4月 一般財団法人自治体衛星通信機構専務理事</p> <p>2019年10月 スカパーＪＡＳＴ株式会社顧問</p> <p>2020年7月 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社特別参与</p> <p>2020年10月 当社社外常勤監査役（現任）</p> <p>2022年6月 協立情報通信株式会社 社外取締役（現任）</p> <p>【重要な兼職の状況】<br/>協立情報通信株式会社社外取締役</p> | 24,000株    |
| 【選任理由】                                                                          |                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |            |
| 伊藤行正氏は、情報通信業界に関して幅広く高度な知見と豊富な知識を有しており、社外監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものと判断し、選任しております。 |                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |            |

| 候補者番号 | ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)                                                                                        | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 所有する<br>当社の株式数 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2     | 渡辺 久<br>(1964年1月29日)<br><div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> | 1988年4月 株式会社第一勧業銀行（現：株式会社みずほ銀行）入行<br>2001年1月 アーサー・ディ・リトル・ジャパン株式会社入社<br>2006年9月 司法試験合格<br>2007年12月 弁護士登録 田中総合法律事務所入所<br>2009年4月 安井・好川法律事務所（現：安井・好川・渡辺法律事務所）入所<br>2010年4月 同所パートナー（現任）<br>2015年2月 株式会社ダイニチ社外監査役（現任）<br>2015年6月 株式会社AOI・PRO社外監査役<br>2016年2月 株式会社PJホールディングス社外監査役（現任）<br>2016年6月 株式会社AOI・PRO取締役 監査等委員<br>2020年10月 当社社外監査役（現任）<br>2020年12月 株式会社T&Pメディトラスト社外監査役（現任）<br>2022年10月 丸の内パートナーズ株式会社取締役<br><b>【重要な兼職の状況】</b><br>安井・好川法律事務所 パートナー<br>株式会社ダイニチ社外監査役<br>株式会社PJホールディングス社外監査役<br>株式会社T&Pメディトラスト社外監査役 | 24,000株        |

**【選任理由】**  
 渡辺久氏は、弁護士として企業法務に携わっており、幅広く高度な知見と豊富な経験を有しております。社外監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものと判断し、選任しております。

| 候補者番号 | ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)                                                                  | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する<br>当社の株式数 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 3     | 織田清典<br>(1971年4月9日)<br><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新任</span> | <p>1995年4月 上松商事株式会社入社</p> <p>2005年10月 ベストメディアサービス株式会社入社</p> <p>2006年6月 株式会社エース・コーポレーション入社</p> <p>2008年4月 株式会社クリアストーン入社</p> <p>2010年5月 株式会社フォー・リンク・システムズ入社</p> <p>2012年4月 株式会社オプティム入社</p> <p>2017年1月 Global Mobility Service株式会社入社</p> <p>2022年4月 当社入社</p> <p>2022年8月 当社管理本部経営管理部財務チームリーダー</p> <p>2023年9月 当社内部監査室長<br/>【重要な兼職の状況】<br/>なし</p> | 一株             |

## 【選任理由】

織田清典氏は、経理、財務、人事、総務や内部監査担当として長く企業の管理部門の実務に携わっており、幅広く高度な知見と豊富な経験を有しております、監査役として経営の監視や適切な助言をいただけるものと判断し、選任しております。

- (注) 1. 各監査役候補者と当社の間に、特別な利害関係はありません。
2. 監査役候補者の伊藤行正氏、渡辺久氏は社外監査役候補者であります。
3. 伊藤行正氏、渡辺久氏は、現在、当社の社外監査役でありますが、両氏の監査役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。
4. 当社は、現在、伊藤行正氏、渡辺久氏との間で、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として損害賠償責任を負担するものとする旨の責任限定契約を締結しております。両氏の再任が承認された場合は、両氏との当該契約を継続する予定であります。また、織田清典氏の選任が承認された場合は、同内容の責任限定契約を締結する予定です。
5. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約の被保険者の範囲は当社の取締役、監査役、執行役員、及び国内子会社の取締役であり、被保険者は保険料を負担しておりません。当該

保険契約により被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為（無作為を含む）に起因して賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害金や訴訟費用等が補填されます。ただし、被保険者の職務の執行の適正性が損なわれないようにするため、犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は填補の対象としないこととしております。各候補者が監査役に選任され就任した場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。

6. 当社は、伊藤行正氏、渡辺久氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ており、両氏の再任が承認された場合には、引き続き独立役員とする予定であります。

#### 第4号議案 監査役の報酬額改定の件

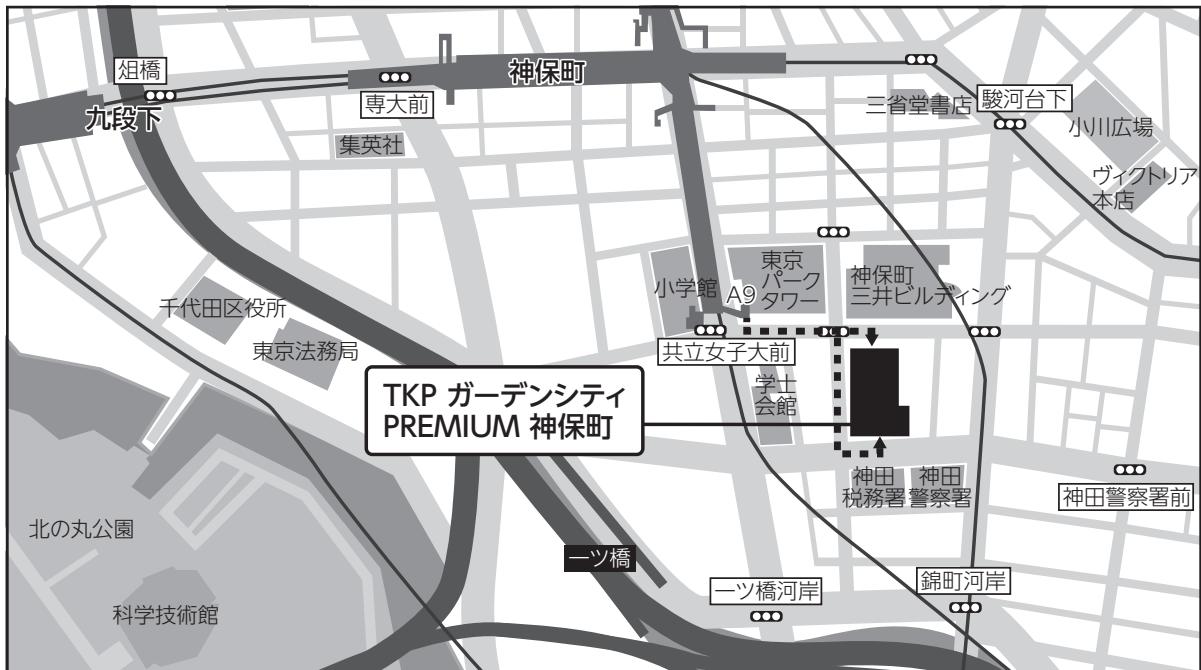
当社の監査役の報酬額は2022年4月27日開催の第27期定時株主総会において、年額10,800千円以内と決議いただき現在に至っておりますが、経営環境の変化に伴い監査体制の一層の充実を図るため、監査役の報酬額を年額20,000千円以内といたしたく改定をお願いするものであります。

なお、現在の監査役の員数は3名ですが、第3号議案「監査役3名選任の件」が原案どおり承認可決されましても、監査役の員数に変更はありません。

以上

## 株主総会会場ご案内図

会場：東京都千代田区神田錦町3-22  
テラススクエア 3階  
TKPガーデンシティPREMIUM神保町



交通 都営三田線神保町駅A9出口徒歩約2分  
都営新宿線神保町駅A9出口徒歩約2分  
東京メトロ半蔵門線神保町駅A9出口徒歩約2分